



ジョイント・ディグリープログラム開設に向けて



岐阜大学は、国際化の推進と教育研究力のさらなる向上を図るため、平成31年度に大学間学術交流協定校のインド工科大学グワハティ校 (IITG) およびマレーシア国民大学 (UKM) とそれぞれ協働し、4つの国際連携専攻を開設します。このジョイント・ディグリー (JD) プログラム開設に向け、平成27年度より様々な活動を行っています。

マレーシア国民大学とのJD協定

10月22日~23日

マレーシア国民大学 (UKM) にて、同大学との国際ジョイント・ディグリー (JD) 博士課程プログラム協定の署名式を行いました。この協定に基づき、平成31年4月に本学大学院工学研究科に岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻が開設される予定です。

署名式では、UKMのノール・アズラン・ガザリ学長、モハマド・カシム理工学部長、本学の森脇久隆学長、鈴木文昭理事 (国際・広報担当)・副学長の4名が協定書へ署名し、記念品の交換を行いました。

翌日は、本学学長をはじめとする関係者が在マレーシア日本国大使館を訪問し、折笠弘維公使参事官および石川仙太郎一等書記官へUKMとのJDプログラムについて説明をしました。



学長記者会見

12月19日

平成30年度第9回学長記者会見が行われ、森脇久隆学長は、「ジョイント・ディグリー (JD) による工学研究科 (博士課程) の専攻設置」について、「岐阜大学の将来ビジョン」と関連させて説明を行いました。また、鈴木文昭理事 (国際・広報担当)・副学長からは、インド工科大学グワハティ校 (IITG) 国際連携統合機械工学専攻とマレーシア国民大学 (UKM) 国際連携材料科学工学専攻におけるJDプログラム設置の背景と概要の説明が、JD専任教員候補者の久米工学部教授 (IITG担当) とリム・リーワ工学部教授 (UKM担当) からは、それぞれの専攻の特徴と意義等の説明がされました。

本学は、このJDプログラムを基盤として共同研究の活性化と学生および組織の国際化、更に岐阜・東海地域産業のJD相手国への進出支援を推進していきます。



ウィンタースクール

12月4日~21日

インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から計8名の学生を受け入れ、本年度で4回目となるウィンタースクールを開催しました。本スクールは、本学と両大学との交流が、ジョイント・ディグリープログラムを円滑に開始する一助となることを目的に企画されたものです。両校ともに高倍率の中から選ばれた学生たちが、工学部または応用生物科学部の研究室で指導教員や日本人学生チューターらとともに研究活動を行いました。研究活動の他に、サバイバル日本語講座や日本文化体験 (地歌舞伎、和太鼓、十二単の着装等)、企業見学 (三菱ケミカル横浜研究所、山崎製パン中央研究所、日清製粉千葉工場) 等を行い、日本への一層の理解を深めました。



New

スプリング・プログラム

2019年3月9日~23日

ジョイント・ディグリープログラムの相手大学の一つであるインド工科大学グワハティ校 (IITG) への短期派遣プログラムを、今年度新たに実施しました。IITGが本学専用に企画したこのスプリング・プログラムでは、インドの優秀な学生と交流し、高い研究力に触れ、現地の文化を学ぶ機会を提供しています。応用生物科学部の1年生5名は、約2週間にわたり、デザイン思考ワークショップ、研究体験、インド企業・研究所等の見学、自然・文化体験等に参加し、現地の学生と積極的に英語でコミュニケーションをとりながら北東インドの自然豊かなキャンパスライフを満喫しました。



愛岐留学生就職支援コンソーシアム事業

愛岐留学生就職支援コンソーシアムとは 文部科学省「留学生就職促進プログラム」の事業目的に賛同した愛知及び岐阜県下の大学(名古屋大学、岐阜大学、名古屋工業大学、名城大学、南山大学)、地方公共団体、経済団体及び企業支援団体が連携し、留学生の国内就職支援を行うことを目的として設立された事業団体です。

岐阜地区ワークショップ

10月31日

コンソーシアムに参画する岐阜県内の4機関(本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構(ジェトロ)岐阜貿易情報センター)の共催により、岐阜県内の留学生と企業との相互理解を深めるためにワークショップを開催しました。

第一部では、留学生、教育機関、企業関係者等103名の参加のもと、留学生の就職や採用状況等について講演がありました。第二部では、本学の教員をファシリテーターに、企業の代表者と留学生が10名ほどのグループに分かれ、ローテーションをしながら交流をしました。



地元企業との交流会

11月14日

日本での就職を希望している留学生を対象とした地元企業との交流会を、本学、朝日大学および岐阜信用金庫との共同で開催しました。16社の企業が各ブースにて企業紹介や自社製品、サンプルなどを展示する中、参加学生は個別に話をすることで企業への理解を深めました。また、テストマーケティングを兼ねたスイーツの試食会では、参加者は日本の和洋菓子を楽しみながら、製菓企業5社に感想や助言を伝えました。



岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会

11月23日

第17回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会が開催され、本学の留学生5名を含む13名が、約7分間の日本語のスピーチをしました。本大会は、留学生の日本語学習意欲の喚起および日本語の表現能力の向上を目的に、平成13年度から行われています。本学の出場者からは、「壁を破る」をテーマに発表したサオカムケット・スパーワディーさんと「つながり～ある中国語学習者との交流～」をテーマに発表したコウ・エツアンさんが優秀賞を受賞しました。



留学生×(株)安部日鋼工業合同ワークショップ

11月28日

留学生と(株)安部日鋼工業との合同ワークショップを、同社にて中部経済連合会(中経連)の協力のもとで開催しました。本ワークショップは、留学生と中経連の会員企業である安部日鋼工業が、お互いをより深く理解することを目的に企画されたもので、同社の会社概要と海外事業展開の紹介やオフィスツアー等が行われました。留学生からは、「日本企業や働き方への理解が深まった」、また同社からは、「留学生の意見と真摯に向き合うことで、岐阜大学との連携強化および会社業務の改善等が期待される」との発言がありました。



秋の国際月間

11月1日～30日

11月 活動内容

11月6日 学長主催
国際交流パーティー

11月14日 外国人留学生と
地元企業との交流会

11月21日 English Circle
of Friends

11月23日 第17回岐阜県内外国人
留学生日本語弁論大会

11月1日～30日
世界の料理フェア
(岐阜大学生協)

学長主催国際交流パーティー

11月6日

本学の外国人留学生や外国人研究者、教職員、国際交流に興味のある日本人学生などが広く国際交流を図ることを目的に、学長主催国際交流パーティーを開催しました。本パーティーでは、海外での実務研修や留学体験、研究活動の報告の他、来年度から設置するジョイント・ディグリープログラムについての説明もされました。参加者は、ミャンマーからの留学生による伝統舞踊などで異文化理解を深めつつ、学長との会話や写真撮影等を楽しみました。



留学報告会

12月19日

「皆さんも、留学してみませんか?」と題した留学報告会を開催し、海外留学をした本学の学生10名が、それぞれの成果を発表しました。サマースクールや交換留学、奨学金制度(トビタテ!留学JAPAN～日本代表プログラム～、パロー・Vドラッグ奨学金)を利用して2週間から1年間留学した学生の発表からは、語学習得や異文化体験、専門分野の学習や研究活動を通してより成長した様子が伺え、留学の魅力が参加者に伝わる報告会となりました。



カンピーナス大学との交流 岐阜市長訪問

2019年1月29日

本学の大学間学術交流協定校であるカンピーナス大学(ブラジル)から、工学系短期受入プログラムによる留学生マルキ・テツミ・スズカワさんと、同大学に工学系短期派遣プログラムにて留学した本学学生の柴田剛毅さんと吉田実礼さんの3名が、柴橋正直岐阜市長を表敬訪問しました。岐阜市はカンピーナス市と友好姉妹都市を提携しており、2018年7月には柴橋市長をはじめとする岐阜市代表団が同市やカンピーナス大学を訪問しています。3名の学生はそれぞれの留学経験を報告し、国際交流の必要性や意義について市長と歓談しました。



十二単の着装と体験

12月12日

本学の日本語・日本文化教育センターが、特別講義「十二単の着装と体験—日本の民族衣装—」を開催し、留学生や教職員など約40名が参加しました。

参加者たちは、同センターの土谷桃子教授による日英両言語での解説を聞きながら、モデルとなった留学生が、和服の着付け講師によって緑やピンクの鮮やかな衣をまとう様子に興味深く鑑賞しました。また、順番に十二単を羽織ることで、その重さを実感し、本物の日本文化に触れる有意義な機会となりました。



留学生スキー研修

2019年2月19日～20日

留学生相互の親睦を図るため、岐阜県郡上市郡上ヴァカンス村スキー場で1泊2日のスキー研修を実施し、34名が参加しました。

スキーが初めてという学生が多いにも関わらず、インストラクターの指導のもと意欲的に練習し、翌日にはどの学生も滑れるようになりまし



うになりました。限られた時間の中で果敢に挑戦し、スキーを習得したことで自信が付き、思い出に残る有意義な研修となりました。

留学体験記



ウェストバージニア大学に
交換留学中



半年を終えて

教育学部 大澤 優衣



私は現地の生活を通して異文化を理解し、アメリカの小学校教育の方針を学ぶためにウェストバージニア大学に留学をしています。寮の国際フロアに住み、ラウンジで気軽に語り合える恵まれた環境で過ごしています。幾つかのクラブに所属しており、大学愛の強い現地の学生と週末と一緒にスポーツ観戦もしました。アメリカならではのパーティーも堪能しました。

課題の多さに圧倒される授業では、幼児発達と高校教育を履修しています。アメリカの現地の子供達と触れ合い、友達と一緒にグル

ープワークに取り組み、夜遅くまで発表準備をしたことは良い思い出です。

留学を通して自分とは違った価値観を持った人と出会い、とても充実した時間を送っています。



日本に留学しているうちに、やりたいことをやりなさい!

日本語・日本文化教育センター

サオカムケット・スパークワディー



私は日本語・日本文化研修留学生として、2018年10月から岐阜大学に留学しています。2回目の留学生活となる今回は、一人暮らしで、様々なことに対処しなければなりません。そのため、私は精神的に成長していくと感じます。

岐阜大学は自然に囲まれ、日本語と日本文化の勉強に適していると思い、ここを選びました。岐阜大学の先生やクラスメートは優しく、問題があれば相談できます。それに、私は様々な日本人の学生さんと交流する機会があるので、日本語能力を高めながら、実際に日本の文化や習慣を、日本人を通して勉強できます。それは留学ならではの経験ではないかと思います。

日本に来てから4カ月が経ちましたが、よい友達もでき、毎日楽しんでます。留学とは、勉強だけではなく、自分のやりたいことや人との関係、問題解決も大切にならなければならないと思います。自分のコンフォートゾーンから出ないと、何が待っているかわかりません。自分が後悔ないように留学生活を楽しみましょう。



大学間学術交流協定の締結

フエ大学



11月12日

本学の森脇久隆学長がベトナム・トゥアティエン＝フエ省を訪問し、同国を訪問中の古田肇岐阜県知事や尾藤義昭岐阜県議会議長らが見守る中、フエ大学との学術交流協定に調印しました。グエン・クアン・リン フエ大学学長は「農業分野と観光分野を重視した連携を推進していきたい」、また森脇学長は、「学生および研究者交流を更に活発化させ、その交流が岐阜県とフエ省、更には日本とベトナムとの交流発展につながることを期待している」と述べました。



アッサム大学



11月20日

本学連合農学研究科と2012年に部局間学術交流協定を締結し、活発な交流を推し進めてきたアッサム大学(インド)と大学間学術交流協定を締結しました。同大学生命科学科とは、「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム」(IC-GU12、日本を含む南部アジア地域8カ国18大学)の加盟大学のメンバーであり、相互に講義や講演を行う等して親交を深めてきました。この締結により、これまでの生命科学や生物資源科学の領域のみならず、全学的な教育の連携が期待されます。



サラマンカ大学



11月26日

本学の森脇久隆学長と鈴木文昭理事(国際・広報担当)・副学長がサラマンカ大学(スペイン)を訪問し、同大学と学術交流協定を締結しました。協定締結に際し、サラマンカ大学リカルド・リベロ・オルテガ総長は、「創立800周年という節目の年に、サラマンカ市とつながりの深い岐阜県に所在する岐阜大学と協定を締結したことを大変うれしく思う」、また森脇学長は、「両大学の強みを生かした分野での相互の学術交流を期待する」と発言しました。今後、医学と薬学分野を中心に研究者および学生交流が開始されます。



職員海外実務研修 in広西大学



10月17日～11月6日

本学の事務職員2名が、大学間学術交流協定校である広西大学(中国)において約3週間の海外実務研修を行いました。現地では岐阜大学留学フェアをはじめとする広報活動や、留学を希望する学生への対応、日本文化を紹介する授業の実施等、様々な活動を行いました。英語が通じない生活環境や文化の違いを体感しつつも学生や教職員と積極的に交流することで、協定校との絆を深めるだけでなく、職員自身の成長につながる研修となりました。



UGSAS-GU

ラウンドテーブル& 国際シンポジウム2018

10月16日～18日

本学の連合農学研究科は、「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム(IC-GU12)」による第6回ラウンドテーブルおよび海外で活躍する本研究科修士を中心とした生物・農学系シンポジウムを開催しました。

3日間にわたって開催された本会議では、IC-GU12新規加盟大学2校の調印式や国際連携活動の進捗状況等についての総合討論、動物の生産性と保護に関する研究発表、ポスターセッション(流域水環境リーダー育成プログラム共催)が行われました。



オウレリウス・ジカス氏 特別講演会



11月9日

本学の工学部は、大学間学術交流協定校であるヴィータタス・マグナス大学(VMU)からオウレリウス・ジカス アジア研究センター所長を招き、特別講演会「リトアニア、カウナス、VMU—杉原千畝氏の絆を大切にしながら—」を開催しました。

VMUが所在するカウナス市は、日本人外交官であった杉原千畝の名が広く知られており、日本への関心が非常に高く、留学を希望する学生も多いことや、VMUの国際色豊かな魅力等が紹介されました。

